様式第３号

会　議　録

会　議　名 （審議会等名）		令和５年度第１回川西市における就学前教育保育の拠点施設のあり方検討部会
事　務　局 （担　当　課）		川西市 こども未来部　こども政策課　内線（3442）
開　催　日　時		令和５年６月６日（火）17：30～19：30
開　催　場　所		ハイブリッド方式（市役所４階庁議室、Zoom）
出席者	委　員	（会長） 卜田真一郎会長 （委員） 小野委員、久保田委員、田口委員、大塚委員
	事務局	こども未来部長　山元昇 こども未来部副部長　岡本敬子 こども未来部こども政策課長　柳本一志 こども未来部こども政策課　中村陵 こども未来部こども政策課　窪田裕一 こども未来部こども政策課　坂本拓麻 教育推進部教育保育担当副部長　下内卓夫 教育推進部教育保育課研修特別支援教育担当課長　岡坂憲一 教育推進部教育保育課長補佐　金山留美 教育推進部入園所相談課長　橋川貴夫
傍聴の可否		(可)・不可・一部不可　　傍聴者数　14人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由		
会　議　次　第		協議事項 （１）　拠点施設が取り組む具体的な内容について （２）　その他

審　議　経　過（要旨）

1．開会

（事務局）事務局のあいさつ、通信の確認

（事務局）こども未来部長あいさつ

２．委員紹介

（事務局）委員の紹介

（事務局）事務局の紹介

３．部会長の選任

（事務局）部会長の選任について説明、事務局からト田真一郎委員を推薦、異議なし

（部会長）

部会長ということで、選任いただきました常磐会短期大学のト田と申します。よろしくお願いいたします。就学前の保育、教育のあり方、その施設はどうあるべきなのかということ、先ほどのご挨拶の中にもあったように保育のことも含めて非常に今関心も高まっておりますし、質をどう向上させていくのかというようなこと、かなり議論になっているということかと思います。国の方でも保育士不足等々の状況もある中で対策を進めているところですけれど、場所であったり時間であったり、予算であったりと限られている中で、１番子どもたちにとっていいものをどうつくっていくのかということが本当に問われてる時期だというふうに思います。

私も元々保育の現場にいた人間ですので、現場は本当に大変な中でやっているという中で、一番子どもにとっていいことを、どういうふうに作っていくのかということ、そういうことを議論しながら川西市の中で、本当にいい形で子どもたちが育つ拠点が作られればと思っております。どうぞ、よろしくお願いします。拠点のあり方というのは非常に大きいと思っておりますので、いろんな意見を委員の皆様からいただきながら進めていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは、議事に移りたいと思います。ここからの進行はト田部会長にお願いしたいと思います。ト田部会長、よろしくお願いいたします。

（部会長）

改めまして、皆さん、よろしくお願いします。委員の皆様との活発な審議を通じて、川西市における就学前教育保育の拠点施設のあり方を整理してまいりたいと思いますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、本日お配りいただいております資料につきまして、事務局の方でご説明をお願いいたします。

（事務局）説明

（部会長）
ありがとうございました。ただいま事務局の方から資料の内容につきまして、説明の方いただきました。本日は、市全体の教育保育の質の向上を支えるために拠点が取り組む具体的な内容についてということが中心の審議内容となってございますが、まず今ご説明いただいた資料の内容について追加の説明や質問がありましたら、まずはそこからお聞きしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（委員）
２点あるのですが資料８番です。保育指導専門員は現在どれだけの方がおられるのかということと、各園所どれぐらいの頻度で回っていただいているのかということと、どのような効果があったのかということを教えていただけたらと思います。
２点目は資料１０の２（４）になります。特別支援コーディネーターの方を１名配置されたということになっているのですが、今現在各園所で特別支援コーディネーターの方はどのような動きをされているのかということと、特別支援コーディネーターの方の連絡会等はあるのかということをお伺いします。

（事務局）
保育指導専門員の派遣事業についてですけれども今年度、私立の保育所そしてこども園、21 箇所に５名の大学教授等の先生方に来ていただいております。21 箇所各１回実施しております。小規模保育事業所は７箇所ありますが、４名の先生方に担当していただきまして、今年度各事業所３回ずつ、実施を予定しています。事前に各園所の強みや良さ、課題等についてシートを記載いただき、当日は保育を見て指導、助言、そして振り返りシートを書いていただくという形にしております。それぞれの園所で、自分たちの園所の保育を振り返っていただく、そして助言を受けて次の手立てにつなげていくといった効果があるかと考えております。

（部会長）
特別支援コーディネーターについては。

（事務局）
特別支援コーディネーターの各園所での動き、効果については、担当課長が、遅れて参加という予定で後ほどお答えさせていただきます。申し訳ございません。

（部会長）
では他の委員から何かございましたら、お願いします。

（委員）
資料の８の２の市教育委員会研修への私立園所の参加について、どのような参加状況なのか、参加されてどういった意見や感想、あるいは評価があったのかということをお伺いしたいです。また同じく資料８の５です。小学校との連絡協議会を年２回実施されていてブースの設置とか、工夫されていると思

いますが、どのような効果や感想が出てきているか教えてください。

（事務局）

市教育委員会主催の研修会への参加状況については、学校が夏休みの期間に実施しましたが、例えば全体会ですと１日通しての実施ということもありまして、就学前施設の参加というのはなかなか難しいところがございました。実際の人数というのが、今正確な人数を申し上げることができないのですけれども、今回 Zoom での開催ということもありまして、園の中で時間をとって参加いただいていたかと思います。各園所、学校からの感想としてましては、学校の方からは、就学前施設の教育保育というのを、実際に見聞きすることが少なかったので、どのようなことをしているかが知れて新鮮でした、というご意見がありました。園所としましては、園所により保育の違いがありますので、そういった就学前施設同士でも違うところや同じところ、それらの良さというものが確認ができたかと思います。本来でしたら対面で講師を迎えてお話し合いができたら良かったのですけれども、前年度は各園所内での交流ということにとどまりましたので、その辺りが十分にできなかったと思っております。

それから就学前教育保育施設と小学校の連絡協議会については、２部制になっておりまして、１部の方では前年度は本市の接続カリキュラムについてご説明をしました。各学校、園所で作成している接続期のカリキュラムの取り組み状況について確認できました。後半は、学校ごとのブースで話し合いをするのですが、一人一人のお子さんの引き継ぎというのが、丁寧にできたかということについての確認、特に私立園所の先生方と小学校の先生方がなかなか接点が少ないということもあり、こういった機会が大事だと感じました。公立の方が連携を取りやすいというところもありますので、私立の園所にも有用な機会かと考えています。

（委員）

ありがとうございました。２の方はもうちょっと詳しく聞きたかったなというのが感想なのですけど、色々工夫されているのがわかったのでよかったです。ありがとうございます。

（部会長）

ありがとうございます。ほかの委員の方いかがでしょうか。

（委員）

メインの話が多分拠点施設の具体的内容になるのですが、数字的なところでいくつか確認させていただきたいのですが、まず資料３で待機児童が０ということなんですけれども、保留児童が増えているということでその背景は何かあるのかということが１点と、資料５・６に記載のある、極端に児童が少ない園について、現状どうなっているのかという点が２点目です。あともう１つ、資料 10 でこれはどの自治体も同じかと思いますが、支援の必要な児童数の割合が、公私のバランスが良くないということについて、川西市はどのような状況なのかということ、以上３点お願いします。

（事務局）

資料３の入園保留者数の増化の要因について、入所申請者自体が昨年度よりも増加しているという背景がございます。中でも１歳児が、昨年度よりも 100 名ほど増加しているというような状況です。この原因として、考えられますのがコロナが落ち着いて就労の意欲が生じた、もしくは経済的な負担から、

早期に就労を求める保護者が増えた、そんな要素が推測として考えられます。参考までに近隣市も確認してみたのですが、やはり本市と同様に１歳児～２歳児についても比較的申し込み者数が昨年度より増えたというような状況になっております。入所の受付をしている担当者の印象としましても、育休からの復帰の方が比較的多かったということです。

（事務局）

私の方からは、資料６の極端に園児数の少ない施設のことについて、ご説明をさせていただきます。具体的に申し上げますと清和台幼稚園の利用人数（B）のところですが、１名になっているというところ、さらに東谷幼稚園についても 10 人ということで、この２園が際立って少ない園と認識をしているところです。いずれも市立の幼稚園でありこの要因につきましては、就学前の子どもたちの人数が基本的に減少傾向にある中で、さらに幼児教育保育の方の無償化がされましたので、保育のニーズがより長い期間、３歳児から保育をしてほしい、あるいはそれ以前からというようなニーズもあるかもしれませんが、より長い期間しかもさらにより長い時間ということで、午前中だけではなくて、朝あるいは昼、午後からも長い時間の保育を希望するという形に、ニーズそのものがシフトしてまいりました。清和台幼稚園と東谷幼稚園の部分については、いずれも４歳児からの保育ということで実施をしておりますし、預かり保育の方についても実施はしているのですが、限定された状況でございます。

久代幼稚園も、多田幼稚園も同様の状況なのですけれども、こちらにつきましては保育所と一体化を目指すということで、一定の方向性を示したというところもございますので、ご覧いただいているような園児の状況になってきております。清和台幼稚園、東谷幼稚園につきましては、閉園あるいは閉園を検討するという市の方針を打ち出しておりますので、それをご確認いただいて園児の方が、減少しているといった状況と分析をしているところです。

個々の園所での保育についてなのですけれども、集団教育保育を提供していくことが大切になってまいりますので、１人ではそれがなかなか叶わないというところもございます。こちらの園では、園外での保育でありますとか、あるいは小学校との交流でありますとか、地域との交流でありますとか、極力多くの方と触れ合いを持つようなそんな機会を作っていくということで保育を実施しております。東谷幼稚園の方につきましては、４歳児、５歳児との複式学級ということで、少しでも大きな集団の中で、過ごしていただけるそんな保育を実施しているところでございます。

３点目について、市立の施設で加配が必要子どもをたくさん受け入れている状況ですが、加配の職員の配置につきましては私立の方にも一定の助成措置を実施させていただいております。そういった部分では対応に大きな差がないように努めてきているところでございますけれども、市立施設を多くの方が使用されている結果になっています。私どもといたしましては、市立、私立に関わらずご希望があれば、そこの園に入所できるように、必要な職員の加配措置については、私立の幼稚園も含めまして、制度を実施してきたところですが、結果としましては公立の方に偏りが生じています。

（部会長）

ありがとうございました。資料等についての追加の説明等で、何かおありでしょうか。

（委員）

拠点施設としての内容を聞いているところで、個人的にちょっと感じているのが施設のことであったり、先生とのことというのが主なので、どうしてもこう拠点施設として市民との関わりが、薄いように

感じてしまって、資料９の伊丹市とか宝塚市に書かれている家庭教育や子育て支援というところが、家庭教育ということになってくると市民との関わりが深くなると思います。拠点施設の取り組みとして、家庭教育というのが入っていると市民も施設の拠点として利用することができるのではと感じました。

（部会長）
はい、ありがとうございます。市民目線でのご意見、非常に貴重だと思います。市民の方との関わりについてという重要な視点だと思いますので、議論の中で活かせていけたらなと思います。

（部会長）
先ほどの資料 10 の特別支援のコーデーターについてということで、ご質問いただいていたかと思います。そちらの方お伝えいただける状況でしょうか。

（事務局）
まず１点目の在籍数に対する加配対象児の割合についてですけども、この件に関してはこれまでの経過を踏まえた時に、加配対象、支援の必要なお子さんが、これまでは公立に通っていた状況がかなり多かったと思っています。しかしながら、川西の中の施策として公立だけでなく私立の就学前の事業所にも補助金対応するということで、対応ができてる部分も思います。私立で支援が必要な子を受け入れることは、経営にも関わりますのでなかなか難しいのが現状だと、他市町の状況を見た時にも実際にも感じているところです。市立と私立の割合だけを見た時にはこれだけの差があるのですが、私立で受け入れていくには補助金だけではなく、やはり職員をどう配置をしていくかというあたりが難しいところと感じております。補助金があっても、配置する人材についても考えなければならないということもあり、その辺も今後の課題だと思っております。
それから、（４）の部分の特別支援コーディネーターについて、本市の中では市内の学校、それから幼稚園、こども園、保育所において、所属長が特別支援教育コーディネーターを市に要請をします。これは専任ではなくて、担任の先生や他の職員が兼任しているのですけども、全ての公立の学校、園所に指名をさせていただいてる状況です。その中でどのような活動をしてるかということに関しては、まずは各学校、園所の中での支援が必要な子の対応であったりとか、保護者対応であったりとか、どんなことに困ってるかということの掘り起こしであったりとか、先生との連携であったりなどを中心にやっていただいております。それ以外に色々な関係機関との連携であったり、その園所の中の対応に本当に困ってる先生とか、なかなかうまくいかないという時に、どう対応したら良いかとか、特に支援が必要な子に関しては、個別の教育保育支援計画と個別の指導計画を作成していますので、本当にこれが妥当なのか、計画を立てて実行・評価をして、振り返りをした後に、これが本当に妥当かどうかというようなことを中心的に実施していただくことが業務になります。その中でコーディネーター同士の連絡会については、６月８日に、各市立の学校、園所のコーディネーターが集まって、第１回コーディネーター連絡会議をさせていただきます。これは年に２回実施しています。そのうえで中学校区に関しては中学校区によりますけども、複数回集まって、特に移行支援、特に就学前で関わってるお子さんが学校に進学する時に、どういう支援が必要なのか、どれぐらいのお子さんがいるのか、ということも含めて対応させていただいています。特にこの特別支援教育コーディネーターの先生方に関しては、研修やそれをどう広めていくかという部分に関して特に力を入れているところです。

（委員）
この連絡会を年２回、開いていただいているということですが、例えば児童発達支援センターの園長もさせていただいている職員であるとか、相談支援の職員であるとか、巡回移行の先生方だとかが入っていくっていうような想定はされていますか。

（事務局）
特別支援教育保育コーディネーターの会議においては、学校園所の施設のコーディネーターがいますので、これまでも相談支援、特に就学前の児童発達支援事業、それから学校に進学する際には放課後デイ、それから保育所等訪問支援事業の説明をいただいたりというようなところで活動させていただいたり、そういうことをすることによって、教育保育もですけれども福祉との連携を強めていきたいなと。顔が見えるところがすごく大事だと思っていますので、コーディネーター連絡会議はそういう活動もさせていただいています。

（委員）
はい、わかりました。

（部会長）
私の方から何点か確認をさせていただきたいのですがまず１点、資料の 10 で、特別な支援が必要な子どもの支援状況ということで加配がついているというような、加配対象児数を入れていただいてるのですけど、ここで挙げておられる子どもさんの人数というのは、特に障がいとか発達の支援が必要という観点で挙げておられる人数ということで理解してよろしいでしょうか。特別支援という概念自体が今広がってきていますけれど、外国にルーツのある子どもさんであったりの在籍状況等々のことも含まれている中で、例えばここに含まれてない場合、どのような状況にあるのかと今ちょっとすぐにというのは難しいかもしれないですけども、お聞かせいただきたいというのが１点です。
もう１つは、その拠点施設ということに関わってなのですが、他の自治体で支援施設を軸としてということで特に幼児教育センターですね、保育幼児教育センター等々立ち上げられてるというところの中でなのですけれど、１つはこの中で例えば伊丹市なんかの場合は、市としての共通の幼児教育の基準カリキュラムのようなものを作って、利用施設のビジョンを作ってという中でこういう展開をされていたりするのですけど、川西市の中で例えばこういうものに関して、市の基本となるような考え方のものが、カリキュラムとしてあるのだというのが、例えば先ほどお話伺っていましたら、接続期のカリキュラムについてはお作りだというふうな印象を受けたのですけど、どういうものを作っておられるのかというあたりのことを聞かせていただきたいと思います。
それから今回の根幹になるので、確認をしておきたいのですが、川西市の資料１ですね、子ども・若者未来計画の中で、市立の認定こども園の事業計画の中に拠点としての役割ということを書いておられるのですが、どういう構成で拠点のことを事務局としてアイデアをお持ちなのか、例えば先ほど他市町の事例を挙げていただきましたけど、何らかのセンターを立ち上げる形をイメージされている、または市立の認定こども園の中にそういう機能を併せ持つ形にしたもので、イメージされてるのかこの辺り議論の前提になるかと思いますので、確認をしておきたいと思います。この会で議論したい内容含めてですけれど、市のアイデアをお聞かせいただけたらと思います。

（事務局）
支援が必要な児童数をどのように把握しているかということですけれども、保護者の了解を得て園所から文書を出していただいて最後は児童調整部会で調整をさせていただき、支援委員会で検討するという形になっておりますので、資料に掲載している人数に関しては、保護者の方の了解を得ている子どもの数です。そのため、それ以外にもまだ診断はついていないけども、疑いであるとか、発達障がいの可能性があるとか、支援が必要なという部分に関しては、かなりの人数がここには現れてない部分があります。その部分を認識しながら園所の中で対応いただいてるというところは実際あります。加配対象児に関しては、特に小学校に進学する時には、多くが市の教育審議会に挙がってきますけども、これ以外の特に小学校で通常学級に在籍する子どもについては、おそらくこの倍ぐらいの数は、数はなかなか伝えにくいですけど、それぐらいの数はこちらで把握し、学校への移行支援として対応させていただいている状況です。

（部会長）
外国にルーツのある子ども、特にニューカマーの方とオールドカマーとは、把握の状況が違うと思いますし、特にオールドカマーの場合は把握自体がかなり難しいと思うのですけど、例えば日本語の支援が必要な子どもであったりというのは、川西市の在籍状況というのはどういう状況なのか、具体的な資料等があれば後日でもいいですが、どのような感じかお聞きしたいのですけどいかがですか。

（事務局）
今ご質問がありました件ですけれども、少し確認をさせていただいてご用意できるようでしたら追加させていただきたいと思います。

（事務局）
市立園所の方で定めております、全体的な計画というのを本市の方で持っておりまして、そちらの方では教育保育理念を「生きる力の基礎をはぐくむ保育」とし、子どもの姿を「生き生きと遊ぶ子ども」、「豊かな心を持った子ども」、「元気な子ども」と３つ掲げまして共通の全体的な計画というのを持っております。

（部会長）
それは私立の方には関わりのない計画ということでしょうか。

（事務局）
はい。現状そうです。

（部会長）
カリキュラムについてはどうなっているのですか。

（事務局）
カリキュラムについては、保育所、幼稚園、こども園の方で共通の教育、保育課程というものを持っているんですけども、その下に各園所のカリキュラムというのを持って運営しています。

３点目の他市の事例でお示ししたような幼児教育センターを立ち上げていくのか、それとも今運営されている認定こども園の中で、そのような拠点として位置付けていくのか、どちらも可能性はあるというような前提の中で拠点の役割、あり方というのをご議論いただければと思っております。

（部会長）
ありがとうございました。資料についてのご質問等はよろしいでしょうか。では、具体的に今のお話を伺いまして、特に市立の認定こども園の中にというところと、センター的な物を作るということの両方を見据えながらというお話を受けた中でなのですが、拠点の施設としてどのような機能を持っていくべきなのかということで、今日はどちらかというと意見を拡散するというイメージで、こういうのがいるのではないか、ああいうのがいるのではないかということなど、いろんなご意見を聞きながら広げていきたいと思っております。どなたからでも結構ですので、例えばこういうことが必要なのではないかとか、こういう機能があるといいのではないかとかいうようなことをお聞かせいただけたらと思います。

（委員）
拠点の役割といたしましてやはり市全体の質を向上させるということで、研修会の開催をする必要があるのかなと思っています。全体研修でありますとか、分野別の研修、キャリア別の研修、キャリアアップの研修会とか、実践研修会の開催ですね、そういったものを拠点の施設で、できればと思っています。そういった方法の場合、先生方大変お忙しくてなかなか研修会には参加できないと思いますのでZoomを組み合わせてやっていただくのはもちろんですし、そのZoomの内容ですね、アーカイブで配信していただけるような仕組みができればと思います。さらに進めてビデオライブラリーみたいな形で、いつでも見たい研修内容を見れるという状況になればいいかなと思っています。拠点としましては職員の方を私立施設等に派遣していただいて支援をしていただくなどといった役割は必要かなと思います。

（部会長）
研修機能ということで出していただいたのですけど、まず研修に関わるというようなことで、いろんなアイデアをいただけたらと思うのですが、いかがでしょうか。特に先生方の研修という部分もあるでしょうし、保護者の方に向けてというようなこともあると思いますね。やり方もいろいろあるかと思いますので、この辺りちょっとアイデアをいただけたらと思うのですが、こういうものが必要ではないかということも含めていかがでしょうか。

（委員）
研修に関するアイデアということなのですけれど、発達の子どもたちとどういうふうに関わっていくかということの研修なども開催していただきたいなっていうのは、個人的な希望です。先生方の研修の内容だなと感じてはいたのですけれど、家庭教育であったり、子育ての中の不安は皆さん、たくさん持っておられると思うので、そういうところの窓口になるようなことが拠点としては必要なのではないかなと思っています。

（部会長）
ありがとうございます。例えばどんな配信の仕方とか、どんな開催の仕方だったらアクセスがしやすいとか、長さはどれぐらいというのはなにかありますでしょうか。

（委員）
子育て中の方はどうしても研修に出向くということが難しかったりもするので、Zoom であったりアーカイブの活用というのは非常に助かると思います。後から見れるというのは、自分の好きなタイミングで確認できるということなので、そういうところがあると非常に助かるなというのは保護者として感じます。

（部会長）
ありがとうございます。配信も内容としても家庭教育であったりとか、支援が必要な子どもさんのことを中心にして、家庭の中でというようなことでもご提案いただいたかなと思うのですけど。

（委員）
そうですね、子育ての中で発達に関することであったり、不安を抱えている方はたくさんいらっしゃって、まずどこに相談すればいいのかとか何からスタートすればいいのかとか、どうすればいいのかということになった時に、いろんなところに回されてしまって困ったというのはよく聞きます。なので、そういうところの拠点として窓口や相談できる場所になってもらえたら非常にありがたいです。

（部会長）
ありがとうございます。研修ということだけではなく、そこがもう相談の窓口になったり、研修がきっかけになって、相談に繋がったりとか。

（委員）
そうですね、相談というか研修を受けることによって、自分の子に対して気付きがあるかもしれないですし、発達そのものを皆さんに知ってもらうきっかけというのが、すごく大切なのかなと思うんです。学校でもそうですし、園生活の中でも、なんかちょっと他の子と違うなというところの気付きが、もしかしたらその子が悪いのではなくて、その子の特性のせいかもしれないので、そういうことへの気付きというのはすごく重要なのでそういう研修もですけれども、やっぱり研修を受けるという方には、何か悩みであったりそういうものを持っていらっしゃるので、研修を受けた後相談したいなと思う方はきっといらっしゃると思うので、そういう窓口が欲しいなと常々思っています。

（部会長）
ありがとうございます。非常に重要な機能だと思いますので、ぜひ積極的に議論の中に活かしていけたらと思います。ありがとうございます。

（委員）
今言っていただいたことは、とてもいいと思いました。他市の取り組み事例ではあるのですけど、1つはハード面で、公立園でその機能を持たすのか、あるいは、自治体の方でセンターを作って持たせて、拠点でするのかとかあると思うのですけど、市によっては園にとっての拠点施設というところもあると思うのですけれど、今のご意見の中で子育てそのものの拠点施設という考えもあるし、私なんかもそっちの方がいいかなと思ったので、単に園に併設しましたというだけじゃなくて、保護者や子どもにとっ

ての拠点というイメージを持てるような方がいいのかなというふうには思いました。
　それと園に向けての研修内容で言うと、自治体の市によって全然違うところもありますが、幼児教育は施設中心になりますので、まあ当然幼稚園教育とか色々指針がありつつも、各園の裁量と言いますか方針とカラーが強く出ると思うのですけれど、そこで自治体として共通の目的を持たせるというのは結構難しいところはあると思うのですね。うまくやっているとこもあるかもしれないし、なかなかまとまらないとかというのもあるかなと思いますので、そのあたり川西にいたらこの水準の保育を受けられるという、そういう方向にしていけるといいかなと。
　それと研修もなにも一方向的な研修じゃなくて、研修受けた人がちゃんと園に持って帰って、研修で受けた刺激を園に還元して園の教育も変わっていけるような、ちょっと抽象的ですけどそういうイメージでやっていって、園そのものが変わっていくようなそういうふうなやり方を考えた方がいいかなと思いました。

（部会長）
　ありがとうございます。園そのものが変わっていくという形の研修というのは本当に重要と思います。各自治体それをかなり意識されていますよね。共通カリキュラムなんかを作られているのは例えば伊丹市とか大阪市なども就学前の教育カリキュラムを作られているのですけれど、どう運用していくのかということで、そんなものがあったのかみたいな反応をされることもあったり、園内研修をそのカリキュラムに沿って進めていくという事業をすることで、園の研修をそれのカリキュラム沿っていくというように機能させておられる場合もあります。いくつかのパターンの中で、１番川西市に合うものというのを議論していきたいと思います。ありがとうございます。

（委員）
　先ほどからのお話で出ている共通のものを作っているところも知っているのですが、私立の園所が知らないということがわかって、それを一生懸命研修していたりする自治体もあるので、そういう共通のものがあった方がいいとは思うのですが、波長合わせのように、それをどのように広げていくのかというところは、かなりやり方の工夫がいると思います。
　それから研修に関して、資料９の四日市のようにプログラムを対象ごとに区分されているのは、すごく分かりやすいと思います。それぞれ目的に合ったものを選べたり、これは全員受けないといけないけれども、これはキャリアに合った人というふうに、いろんなタイプの研修があって、全体的にぐっとレベルが上がるようなものを将来的には目指さないといけないのかなということを思いました。保育の質と一言で言っても、子どもの直接的な支援があれば、保護者への支援というのも非常に大事になってきますし、既にお話があったような不適切保育の問題、虐待の問題、それから安全管理とか、どんどんしなければいけないことが広まっているので、そういったことを１つ１つ抑えていくような研修も必要かと思います。
　それから研修の内容としては、先ほど外国にルーツがある子どもの話であるとか、障がいのある子どもの話は出てきましたけれども、いわゆる要支援、要保護の児童のことも結構困っていらっしゃる方が多いので、そういった研修もいると思いますし、いろんなメニューがいくらでも考えられると思います。
　あともう一つ、別の視点としては、職員スタッフのキャリアパスです。そういったところもしっかり支援していかないと、結局は定着しないし、人手不足というのはいつまでも変わらないので、そういったキャリアパスを示したり、あるいは両立支援ですね、出産をしてまた戻ってくるというような文化み

たいな、そういうところというのはやはり親も安心して預けられますし、それも質に関わってくるので、そういったキャリアパスを意識したようなものというのも、おそらく必要なのかなというふうに思いました。

あとは、先ほどおっしゃってたように、親へ向けてです。保護者の支援も当然いると思うので、そういったメニューはちょっと研修っぽくないのですけれども、あった方がいいというふうには感じます。

（部会長）

ありがとうございます。研修内容の部分と研修の目的の部分と、実施方法の部分と、実施対象の部分ということで、かなりいろいろ可能性が見えてきたのかなというふうに思います。もう少し深めていく方向ということも必要かなと思いますので、例えばこんなアイデアがあるのではないかとか、こういうのも必要ではないかということもざっくばらんに言っていただいてもいいというふうに思うのですけど、少し私の方から１つ、感じたことなのですけど、先日、二十数年間続けている、人権保育の研究会があって、その時に全体会の中で、私がちょっと話をした後でグループ討議をしていただきました。かなり大きなテーマを投げかけ、40 分間の話の予定だったのですけど、相当話が盛り上がって話されていて、保育を語るということが、なかなか今どうもできていない中で、語る機会があったということが、自分の悩みであったりとか、そういうことを出し合って共有し合うということは、すごく意味があったようなんです。そういうふうに自由に保育を語れるというようなあり方ということも、１つ必要なのかもしれないなと思いました。いろんな立場のいろんな方が来られておりグループもできるだけバラバラに作ったんですけど、かなり話し合いが活発で参加されてる先生方にお聞きしたら、今園の中で保育のこととか子どものことを語るということ自体がすごく難しくなってる、時間的な制約の中で。その中で自分一人で色々抱えてしまったりということもあるし、「その不適切な行為が起こってきた背景にも、子どものことをポジティブに語り合うみたいな空気感が園内でなくなったことが原因にあるのではないかなと感じている。」というご意見もあって、それもなるほどと思ったのです。そういう、自由に語れるみたいな場があるということも、もしかしたら必要なのかもしれないというのはあるのですが、これはもしかしたら保護者の方も同じかもしれない。子育てについて自由に語れる場みたいな機能っていうかある種の研修なのですけど、そういうのも必要なのかなと思いました。

（委員）

他市でやってるのが、市の方のコーディネートで、若手の保育士を集めて保育について話し合う相談会みたいにするような機会を設けているところもありますね。今おっしゃられたようになかなか、園の中で機会がない。園のベテランから見たら、若手がちゃんと話す前にやめてしまうというのもあって、やっぱり定着というのも含めて、そういうふうな場を作ろうとしているような市もあります。また、これは実際やってるわけじゃなくて、ある市で話が出てるのは、その市の中でのキャリアパスという、これまではどちらかというとある園を辞めるのはしょうがないけど、辞めると同じ市だとちょっと採用しにくいとかあったのですけど、むしろこの水準までその子はきているというようなことで、またそれが連続してその次の園にそれを持っていけるような、そういうのもいいんじゃないかみたいなことを言って、実際なかなか難しいかなとは思うのですが、そういうことを考えているところがあるので、どうやって若い保育士がずっと続けていけるような感じにできるかは重要かなと思いますね。あと大学なんかで、若い学生を集めたり、中堅の子を集めたりするともう話が止まらないですね。20 代後半ぐらいになると、話がなかなか止まらないぐらいになっていくっていうのもあるので、やっぱり保育について話し

たいのだけど、話せない話す時間がないようなところがあるかもしれませんので、そういうのを市の方で場を作っていくというのもあるかなと思います。

（部会長）
事務局の方に聞くのですけど、例えばそういうことをやった時に、どちらからも結構参加してくださるような雰囲気はありますか。他の自治体さんで研修の話を聞いてたら、研修に行ったらなんかいろんなことを言われて、自分の園の保育に疑問を持つようになって、辞めるからということがあり、もう研修でいらないことを言わないでくれと言われたという話を聞いてしまったことがあって、市の方でこういう研修やりますよと言ったら、一緒にやっていけるような関係作りをしていくというのは重要になると思うのですけれど。私立の園の先生方の参加状況とか、そういうあたり一緒にやっていけるという関係づくりはされているのでしょうか。

（事務局）
私立の園所に参加を呼びかけたのは、昨年度夏の県の研修会からですので、まだ始まったところというのもありますし、先ほど申し上げたように、時間的に難しい設定というのもありまして、すごく少ない参加だったかと思います。市立の園所は毎年開催してる研修会ですので、参加するという体制があるので比べるとやはり市立の園所の方が、参加が多かったかと思います。

（部会長）
ありがとうございます。今からその関係を作っていくというタイミングだということもよくわかりましたので、その状況を活かして、この拠点が何をしていけるのか、どういう関係を作っていけるのかというかなり前向きな話ができるのではないかなというふうに今お聞かせいただいて感じます。
研修ということで、語り合う場みたいなことが出てきたかなというふうに思うのですけど、そこの部分も含めて、またそれ以外ということも含めて、こういう拠点の役割というのがあるのではないかというあたり、アイデアをお聞かせいただいたと思うのですが、いかがでしょうか。

（委員）
保護者同士の関係を作っていくうえで、ペアレントトレーニングは有効かなと思います。子どもの褒め方と叱り方、学ぶだけではなくて保護者同士がそれぞれの子育てについて活発に語り合っておられて、保護者が他の保護者のお話を聞きながら、自らの育て方を振り返ることができるという意味では有効かなと思います。ただこれをしようと思いますと、１クール５回、６回繰り返すような形になりますし、スタッフの方も必要になってきますので、その点にしっかりとした体制をとって臨まなければいけないと思いますが、川西さくら園の中でもやらせていただいたのですけど、本当にすごく活発な意見交換ができていたので、いいのではないかなと思いました。

（委員）
１つは、すでにされてるようなアウトリーチ型のものをしっかりとやっていくというのがすごく大事だなと思っていて、どんどん出ていって課題を見つけて、それをどう解決していくのかとか、あるいはすごくいい実践をやっていれば、それを大事にしていくとかっていうような来てもらうだけではなくて、出ていくという機能はすごく大事だなと思います。すでに実施されていることもあるかと思いますが、

それはもう必須ではないかなと思います。巡回訪問とかいろんな表現をされていますけど、どんどん外に出ていくということは大事かなと思います。

もちろん保護者の方の相談というのも大事なのですけど、小学校との連携というのがどこの自治体でもうまくいっているというのはあまり聞いたことがなく、体制づくりや協議会も設置しているけれど機能しているという声も聞かないので、そういったところもすごく力を入れていってうまくいけば新しいと言いますか、昔から言われてることが実現できるみたいな、そういうことになると思います。プラスアルファで支援が必要な様々な子どもにもっと力が入れられるといいますか、分けるのではなくて、さらにそこに力を入れるみたいなのがあると素敵だなと思います。

あとは例えば今児童福祉法の改正で注目されているような未就園の０、１、２歳です。家庭で子育てをされている方への支援はどうなるんだろうとか、そこに手を出すのかどうかとか。あるいは、子ども家庭センターの横に書いてある地域子育て相談機関とかその辺りの関係性をどうしていくのか、専門的ですけれども、その辺りも少し気になったりしています。話が大きくなるのですけど、やはり作ったからには、ちゃんと評価をする仕組みということを最初からイメージしておいてきちんと評価指標を最初からある程度設定しないと、とりあえずやってみましたということではよくないので、見通しをしっかり立てて、評価までやることが大変難しいのですけれども、もしできれば、大変素敵だなと思います。

（部会長）

色々アイデアをいただいてありがとうございます。ペアレントトレーニングとか、保護者の方の関係というのも非常に大きいかと思います。例えば同じような特性を持っている保護者同士の親の会みたいな繋がりができるのも大きいかなと思います。Slack という会議ができるような、インターネットのシステムがあるのですけど、そこでかなり繋がることができるみたいで、就学のことであったりどこどこの服だったら、障がいのある子でも着やすいみたいな情報交換ができるような関係を作っているので、そこにかなり支えられてるのです。話が思いもよらない方向に行く時もあるので、スーパーバイザー的な人が入ってというようなことができるような取り組みが構築できるということもいいのかなと今ペアレントトレーニングのことを言っていただいたので思いました。あとアウトリーチ型で課題解決していったり、実際に現場に入っていってみたいなことというのもご提案いただいていますように、どういう仕組みがあればより効果的に動かせるのか、先ほど言ってたような、共通カリキュラムを作ることでそういう根拠を作るのか、もっと違う形でもっていくのか、何が一番いいのかということもありますし、小学校との連携、どこも頭を抱えておられるので、そこの視点もあると思いますし、未就園の支援のことであったりということは、現時点で他に市内で取り組まれている他の事業との関係性もあるかと思いますので、そのあたりもぜひ市の方から情報提供もいただきながら、整理できたらなというふうに思います。それから評価の仕組みについても、かなり重要なポイントになるかと思いますのでその辺り全体的な設計として考えていけたらなと思います。

（委員）

どこの園もそれをされているのかはわからないのですけれども、久代幼稚園では小学校との連携とかで幼稚園から、給食を食べに行ったり授業を見に行ったりというのは、コロナ前にされていたようで、川西南保育所とあおい宙こども園というのが近くにあるのですけれども３つの園で、交流会みたいなことをコロナの前にはされていたと思うんです。そういう小学校に進学する過程であったり、幼稚園、こども園というところの連携に繋がるのかどうかわからないのですけど、そういう交流があると小学校に

進学した時に、あの時会った子だというふうに子どもたち自身も仲間意識ができたり、小学校への楽しみみたいなものができて、非常に良かったなと思います。交流は結構な頻度であったと思います。随分前の話なので、今は交流が一切されてない状態にどうしてもなっているので、その辺りというのはまた復活してくれたらなというのは、個人的な願いです。

それから先ほどお話にあった自由に保育を語れる場というのを先ほどおっしゃっていたと思うのですけれども、そういう時間というのはペアレントトレーニングという、発達の段階での方たちだけではなくて、普通に子育てしてる方たちは常々欲しいなと思っている場所だと思います。久代小学校地区の主任児童委員をされている方が、お馬の親子というのをコロナの前にずっとされていて、今もされてはいるのですけれども、家庭教育の先生を神戸から呼ばれて、そこでなんでもいいからお話しましょうというわけじゃなくて、その日にその先生が今日はこのことについてお話しします、という勉強会を月に１回されていました。私も子育て中、１番上の子が、０歳の時とかに参加させていただいて、０歳児抱っこしながらはなかなか受けれないので、その子たちを見てくれる保育の方が、多分民生委員かどなたかが来てくださっていたのだと思うのですけど、来てくださっていて、その場で一生懸命こういうことに困っているっていうことも含め、家庭教育で必要なことを勉強していく中で皆さん、悩んでいることとかが出てきて、吐き出すようにされる部分もあったり、いろんなお話を聞いて、自分１人が大変なのではないということを共感できたり、明日頑張ろうというふうに思える時間をたくさんいただいたのです。そういう自由に保育を語れる場というのは保育とか教育に関わってる方たちには非常に重要な場所なのではないかなというふうに感じます。

（部会長）

すごく面白い視点をいただいたのはこの拠点が子どもをつなぐ場所になるという、地域の子どもを繋ぐ場所になるというアイデアをいただけたというのはすごく大きいなと思います。例えば、その拠点園がコーディネートして、近隣の就学前施設の子どもたち、５歳の子どもたちがみんな集まって小学校に行くとか、そういうこともコーディネートしやすくなるかもしれないというアイデアをいただいたかなと思います。それから保護者の方の語りあう場所みたいなことというのも、もしかするとそういう誰かがいて、みんなが来れるようなサロンみたいなものがあるみたいなことにも繋がるアイデアなのかなと思いました。

（委員）

今言っていただいた点、すごく重要かなと思いまして、育児不安という言葉が出てきた頃から、子育て中の保護者は社会から置いていかれてる感じというのはあるので、要するに就園児の保護者が集まれるようなものを作っていくというのはすごく重要かなと思います。その地域の子育ての力をつけていくというのは重要かなというふうに思います。小学校の連携については、なんとなく私の印象ですけれど人に張り付いてしまう。例えば校長先生とか、積極的な人がいると、その人がいるとうまくいって、異動になるとまた力が戻るとか。どうしても誰かがうまく引っ張らないと、公立園が拠点になって小学校と私立を引っ張っていかないとうまくいかないかなと。人に張り付かないで、どうにかそれを制度化していけるような感じですね。

（部会長）

研修の内容で、発信する中身の中でちょっと意識しておくといいかなと思うのは、外国ルーツの子ど

もがこれからおそらく日本社会の中で、10パーセントを占めるような社会になるという流れの中で、外国ルーツの子どもの保育ということは喫緊の課題になってくると思います。その中でのノウハウを構築していって、共有していくということも必要になるでしょうし、日本語の支援と、あと母国語の支援ですよね、両方が必要だということが最近よく言われますので、日本語は日本社会に適用するためにですが、母国語を維持する仕組みを作っておかないと、家庭の中での言語が共有されなくなるということで、色んな課題が起こるということも最近かなり指摘されています。そういうふうな機能というのも、その中で全部やってしまう、というのではなく、人間関係を繋ぐみたいな機能も必要なのかもしれないという中で、全てを幼児教育の拠点の中でやっていくのではなくて、拠点があるからいろんなとこと繋がっていけるみたいな、そこを促進していけるみたいなことはあってもいいのかなと思いますし、他団体であったりとか大学であったりとか、そういうとこに繋がっていくみたいなそのつなぎ役、コーディネート役という意味でも拠点の役割というのも大きいのかなと思いました。

そろそろ時間の方も来ております。もしかすると十分言いきれなかったこととかありましたら、次回の拠点施設が担うべき役割について、もうちょっと具体化した話のほうになっていくかと思いますので、それまでに何かこういうのもあるのではないかと思われた方がおられましたら、事務局の方にご提出いただいたらというのと、それから議論するためにこういう資料は必要なのだというものが、もしありましたら、それも事務局の方にこういう資料があったらということをご連絡いただけたらと思っておりますが、よろしいでしょうか。そういう形で進めさせていただけたらと思います。事務局の方にはお手数おかけいたしますが、資料の取りまとめ等、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、議事の方ここで終了ということにさせていただきたいと思います。皆様ご協力いただきましてありがとうございました。次回以降も活発な議論ができたらと思います。では、進行の方事務局の方にお返しします。よろしくお願いいたします。

５．閉会

（事務局）閉会の挨拶

（閉会）